

第4回評価委員会の議論を踏まえた評価結果（案）の変更事項

資料2 - 1

		変更前	変更後
全 体	p 7 【評価にあたっての意見、指摘事項】2 2段落目	しかし、第2回調査の受験率が著しく低かったことは、非常に残念であるとともに、 <u>経済学部における第1回調査の平均点が低い水準であったことは、憂慮される。</u>	しかし、第2回調査の受験率が著しく低かったことは、非常に残念である。 <u>大学として英語力向上のための方針と計画を明確に定めていただきたい。</u>
	p 9 特筆すべき 項目 3つ目	・国際学会発表支援事業及び博士課程研究遂行協力制度の実施 国際学会発表支援事業では <u>30名の申請があり、アメリカ、オーストラリア、イギリス、中国、韓国、タイ、インドなどで開催される学会参加を支援した。</u> ウェブサイトや国際交流推進センター広報誌 Newsletterなどで国際学会発表支援事業の概要・成果・体験等を掲載し、学内周知を図った。 <u>震災の影響もあり、前年度から支援件数が22件増加した。</u>	・国際学会発表支援事業及び博士課程研究遂行協力制度の実施 国際学会発表支援事業では、アメリカ、オーストラリア、イギリス、中国、韓国、タイ、インドなどで開催される学会参加を支援した。 <u>震災の影響などがあった前年度の支援件数22件から30件に増加した。</u> ウェブサイトや国際交流推進センター広報誌 Newsletterなどで国際学会発表支援事業の概要・成果・体験等を掲載し、学内周知を図った。
教 育	p 11 2段落目	○教育支援センターにおけるFD活動 平成25年度から、授業評価アンケートを活用し、相互研修型等の「FD活動の実質化」の <u>取組</u> として「教養科目」における研究授業（教員相互の授業参観）を実施するとともに、授業外の修学時間の確保に向けた事態調査を行うこととした。	○教育支援センターにおけるFD（ <u> </u> ）活動 平成25年度から、授業評価アンケートを活用し、相互研修型等の「FD活動の実質化」の <u>取り組み</u> として「教養科目」における研究授業（教員相互の授業参観）を実施するとともに、授業外の修学時間の確保に向けた事態調査を行うこととした。 <u>FD：ファカルティ・ディベロップメント</u> <u>…教育方法等を改善するための組織的な研究・研修等の取り組み</u>

教 育	p 1 2 【評価にあたっての意見、指摘事項】 2 つ目	・ T A (ティーチング・アシスタント) 制度の実施 T A 制度自体は大学院生にとって大変有意義であり評価する。ただ、T A 制度には従来から問題があり、使い方が明確にならなければ研究活動の障害となるため、本格的に展開するのであれば、研修体制等を整えることが望まれる。	・ T A () 制度の実施 T A 制度自体は大学院生にとって大変有意義であり評価する。ただ、T A 制度には従来から問題があり、使い方が明確にならなければ研究活動の障害となるため、本格的に展開するのであれば、研修体制等を整えることが望まれる。 <u>T A : ティーチング・アシスタント</u> <u>...主に大学院学生が教員の指導のもとに学部学生に教育補助業務を行う制度</u>
	p 1 2 【評価にあたっての意見、指摘事項】 3 つ目	・ 最先端研究者を招へいしての特別講義開催 当該セミナーの成果、課題を提示されたい。また、<u>最先端研究者を招へいしてのセミナーについては、計画の策定及び振り返りの実施の検討が望まれる。</u>	・ 最先端研究者を招へいしての特別講義開催 当該セミナーの成果、課題を積極的に提示されたい。また、<u>大学として、招へい研究者の分野の偏りを問題視するのであれば、計画の策定及び振り返りの実施を検討されたい。</u>
社会 貢 献	p 1 6 【評価にあたっての意見、指摘事項】 1 つ目	・ 全学的な地域貢献を推進するセンターの設置計画策定 文部科学省に申請した大学 COC 事業での「ソーシャル・キャピタル・センター（仮）」との位置づけを早急に精査し、全学的なセンター創設を進められたい。	・ 全学的な地域貢献を推進するセンターの設置計画策定 文部科学省に申請した大学 COC 事業()での「ソーシャル・キャピタル・センター（仮）」との位置づけを早急に精査し、全学的なセンター創設を進められたい。 <u>大学 COC 事業（地（知）の拠点整備事業）</u> <u>... 全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学等を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的とした文部科学省の事業</u>

社会貢献	p 1 6 【評価にあたっての意見、指摘事項】 2 つ目	・ 産学官連携の強化を図る組織体制のあり方の検討 産学官連携にあわせて地域貢献業務を所管する事務組織体制として産学官連携係を設置したことは評価できる。当係の業務内容は、一般事務とは異なるため、配置される職員には、<u>高い専門的知識の習得</u>が求められる。	・ 産学官連携の強化を図る組織体制のあり方の検討 産学官連携にあわせて地域貢献業務を所管する事務組織体制として産学官連携係を設置したことは評価できる。当係の業務内容は、一般事務とは異なるため、配置される職員には、<u>産学官連携を推進する観点からも、引き続き必要に応じて専門的知識習得の機会を持つことが求められる。</u>
大学の国際化	p 1 7 特筆すべき事項	・ 国際交流組織の充実化（ ） 国際交流推進センターで、6 月に開催した「留学フェア」では、発表者を含め<u>人社・経済・看護学部</u>の学生 4 4 名が参加し、留学体験者や協定校留学生との活発な交流・意見交換が行われた。	・ 国際交流組織の充実化（ ） 国際交流推進センターで、6 月に開催した「留学フェア」では、発表者を含め<u>人文社会・経済・看護学部</u>の学生 44 名が参加し、留学体験者や協定校留学生との活発な交流・意見交換が行われた。<u>また、中国語 Talk Time や韓国語講座などを開催し、英語圏以外の留学への語学学習サポートの充実化を図った。</u>

業務運営の改善及び効率化	p 2 2 【評価にあたっての意見、指摘事項】 1 つ目	・教育・研究に関する事務体制の強化及び大学事務局組織の改編 教育研究の支援を強化するため事務職員体制の充実が不可欠だという認識が着実に高まり、FD(ファカルティ・ディベロップメント)等の実施を支えるなど全学的な教育支援体制を整備するため、教務企画室に主事1名を増員配置したこと、事務職員不足を補うため、あえて教員の定員削減計画を策定したこと、キャリア支援専門員を増員して学生の就職支援体制の強化したこと、病院においても専門職の契約職員を配置し診療体制等充実を図ったこと、外部資金を原資に新たに特任教員を採用したことは注目される。 入試広報課の新設、および、関係各課における産学官連携係と国際交流係の新設、<u>教務企画室への主事増員</u>などが図られたことは、戦略的な大学運営に向けた重要な進展として評価できる。これらの大学職員には、学習成果の検証に必要なIR(インスティテューショナル・リサーチ)の担い手としての専門的力量が要求される。 今後は、教職協働の観点から、計画的なFD(ファカルティ・ディベロップメント) SD(スタッフ・ディベロップメント)を行うことが期待される。	・教育・研究に関する事務体制の強化及び大学事務局組織の改編 教育研究の支援を強化するため事務職員体制の充実が不可欠だという認識が着実に高まり、FD等の実施を支えるなど全学的な教育支援体制を整備するため、教務企画室に主事1名を増員配置したこと、事務職員不足を補うため、あえて教員の定員削減計画を策定したこと、キャリア支援専門員を増員して学生の就職支援体制の強化したこと、病院においても専門職の契約職員を配置し診療体制等充実を図ったこと、外部資金を原資に新たに特任教員を採用したことは注目される。 <u>教務企画室への主事増員がなされ、入試広報課の新設、および、関係各課における産学官連携係と国際交流係の新設などが図られたことは、戦略的な大学運営に向けた重要な進展として評価できる。</u>これらの大学職員の中には、学習成果の検証に必要なIR()の担い手となる者もあり、専門的力量が求められる。 今後は、教職協働の観点から、計画的なFD、SD()を行うことが期待される。 <u>IR：インスティテューショナル・リサーチ</u> ... <u>大学の企画、政策策定、意思決定を根拠づける情報を提供するために当該大学の専門部門で行う調査研究</u> <u>SD：スタッフ・ディベロップメント</u> ... <u>職員の職能開発</u>
--------------	---	--	--

業務運営の改善及び効率化	p 2 2 【評価にあたっての意見、指摘事項】 3 つ目	・教員業績評価の実施 第一期中期目標期間を通じて着実な実施が期待されてきた教員の業績評価の実施とその処遇等への反映については、<u>教員業務評価がどのように実施されたのか、それが処遇等にどう反映されるのかを具体的に確認することが難しい。資料も何ら提出されていない。第二期中期目標期間に入っても本小項目の実施にはなおも懸念を禁じ得ない。</u>	・教員業績評価の実施 第一期中期目標期間を通じて着実な実施が期待されてきた教員の業績評価の実施とその処遇等への反映については、<u>各研究科・学部の統一を図る等の努力が着実に積み重ねられつつあり、第二期中期計画に基づく平成 25 年度の実施状況を踏まえ、引き続き注視していきたい。</u>
財務内容の改善	p 2 4 【評価にあたっての意見、指摘事項】 1 つ目	・財務指標の計画値と実績値の差異要因と<u>行動指針</u>の検討 財務諸表の説明資料について、わかりやすくまとめたことは評価できる。目標を下回っている指標について、計画値と実績値の差異要因を明確にし、<u>今後の行動指針を示すべきである。改善を検討しなくては意味がない。</u>	・財務指標の計画値と実績値の差異要因と<u>今後の対策</u>の検討 財務諸表の説明資料について、わかりやすくまとめたことは評価できる。目標を下回っている指標について、計画値と実績値の差異要因を明確にし、<u>今後の対策を検討すべきである。</u>
	p 2 4 【評価にあたっての意見、指摘事項】 2 つ目	・コンプライアンス面の研修と定期的なチェックの<u>検討</u> 適切な経理事務を行うためには、内部統制とコンプライアンスは裏表であり、コンプライアンス面の研修とあわせて実施したほうが効果的である。研究費の処理については、不正等発生リスクが大きいので、<u>内部監査室等による定期的なチェック等も検討が望まれる。</u>	・コンプライアンス面の研修と定期的なチェックの<u>継続実施</u> 適切な経理事務を行うためには、内部統制とコンプライアンスは裏表であり、コンプライアンス面の研修とあわせて実施したほうが効果的である。研究費の処理については、不正等発生リスクが大きいので、<u>監査評価室等により実施されている定期的なチェック等を、今後も的確に進めていただきたい。</u>

財務 内容 の 改 善	p 2 4 【評価にあたっての意見、指摘事項】 5 目	・病院の経常損失の解消に向けた検討 病院の経常損失の主な原因である減価償却費について、<u>財務処理上</u>の問題として市と相談することが望まれる。	・病院の経常損失の解消に向けた検討 病院の経常損失の主な原因である減価償却費については、<u>固定資産の取得財源</u>の問題として市と相談することが望まれる。
その 他 の 業 務 運 営	p 2 8 【評価にあたっての意見、指摘事項】 1 目	・生物多様性研究センターにおける環境に関する学術研究の推進 生物多様性研究センターについては、<u>環境に関する学術研究を推進する組織であることを、このセンターの位置付けと展望を明示しつつアピールする必要があるのではないか。</u>	・生物多様性研究センターにおける環境に関する学術研究の推進 生物多様性研究センターについては、<u>生物多様性に関する学術研究に主眼を置きながら環境に関する研究も行っているところであり、今後、生物多様性の拠点施設としてセンターの位置づけと展望を明示しつつアピールしていく必要があるのではないか。</u>